

軽量・高剛性ハニカム製パネル「TECCELL（テクセル）」を車両架台に採用

茶殻配合軽量パネル（茶殻配合 TECCELL）を伊藤園と共同開発

〈軽量化+環境負荷低減〉

この度岐阜プラスチック工業株式会社（本社 岐阜市、社長 大松栄太）（以下、岐阜プラスチック工業）は、ハニカム製樹脂パネルである「TECCELL（テクセル）」に茶殻配合樹脂を組み合わせた製品を、株式会社伊藤園（本社 東京都渋谷区、社長 本庄大介）（以下、伊藤園）と共同開発いたしました。

「テクセル」は軽量・高剛性を特長とする樹脂製ハニカムパネルです。このテクセルに伊藤園の「茶殻リサイクルシステム」を活用し「茶殻配合軽量パネル」を開発。表面層には薄いアルミ材を接着したアルミ複合板とし、伊藤園の営業車両の架台へ採用することで従来に比べて最大 110kg の軽量化（※1）に成功しました。



110kg の軽量化に成功したモデル車両（架台のドアパネル、床材に「茶殻配合軽量パネル」を使用）と、茶殻配合軽量パネル（茶殻配合 TECCELL）

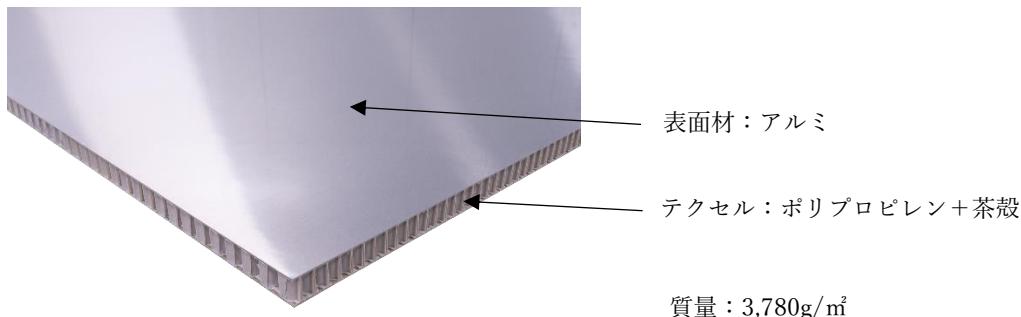
当社テクセルは汎用樹脂であるポリプロピレンを主原料とし表面層にアルミ材など他素材を組み合わせた複合材としてあらゆる分野で使用されています。また伊藤園の営業車両などトラックの架台は、軽量化と強度確保のためアルミ材が多く使用されていますが、非鉄金属は世界情勢の影響を受けやすく安定供給に課題があります。そこで当社「テクセル」の成形技術と伊藤園の技術である「茶殻リサイクルシステム」の活用によりこの「茶殻配合軽量パネル」の開発に成功しました。

これを非鉄金属の代替原料として営業車両の架台部分（スライドドアやバックドア、床材）に使用することで、非鉄金属の使用量を削減するとともに従来車両と比較して最大 110kg の軽量化に成功、また従来のスライドドアやバックドアと比較して約 1/3 の力（※2）で扉の開閉が可能となりました。

さらに伊藤園営業車両全台に展開した場合、石油資源（軽油）を約 750kℓ 削減でき、それに伴う CO₂ 排出量を約 1,930t 削減できます（※3）

当社は今後ともあらゆるリサイクル材の活用を推進し環境負荷軽減を通じて社会に貢献してまいります。

◇製品について



◇株式会社伊藤園 会社概要

代表者 代表取締役社長 本庄 大介
本社 東京都渋谷区本町3丁目47番10号
設立日 1966年8月
資本金 19,912(百万円)

(※1) 従来使用していた伊藤園営業車（3トン車）のスライドドア、バックドア、床材を軽量化し、改装前後の重量を測定

(※2) 各ドアに荷重測定器を取り付けて開閉時の荷重を測定

(※3) 物流分野のCO₂排出量に関する算定方法ガイドライン（経済産業省・国土交通省）をもとに推算